

今回は、「よくある社員の間違い行動」という小冊子からです。

私の上司は何も教えてくれない

「私上司は何も教えてくれないんですよ」「ほんとなの?」「ええ、自分の思うとおりにやってみろ! 仕事は経験で覚えるものだ! そう言うんですよ・・・確かにそれはそうなんだけど・・・」事細かに教えてくれる上司もいるが、現実にはむしろこういった上司の方が多いではないか?と思う。しかし、こういった上司は、本当に教えてくれない上司なのだろうか?私は違うと思う。

事細かに教えてくれる上司のもとで働けることが、普通だと思っている人が驚くほど多い。だから、そうでない上司に巡り会うと転職してしまう人さえいる。しかし、次の職場でも、たいてい似たり寄ったりなのが現実である。それならば、そういった上司からでも、教えてもらえるコツを身につけてしまったほうが早いのではないかと私は思う。コツは大きく分けて二つある。決して難しいことではないので、ぜひマスターしてほしい。それは、「質問魔になること」と、「小刻みにお礼をする」ことだ。わかりやすく説明するために、営業という仕事で説明しよう。まず同行することだ。お客様のところに一緒に行くのである。そして、上司の会話を一字一句メモするのである。商談が終わる。ここから、あなたは質問魔に変身するのだ。「今の会社の部長様、〇〇課長をすごく信頼しているように感じましたが、そう思ってもらえているのはなぜですか?」「さっきの会社で説明したセールスポイントと、今の会社で言ったセールスポイントが違ったのはなぜですか?」「あの会社では、事務所に行く前に、工場に立ち寄って立ち話し挨拶した人がいましたが、どなたなのですか?なぜその方と話したのですか?」とにかく疑問をもって聞きまくるのである。そうすると、過去の成功談から営業の細かいテクニックまで、仕事は経験で覚えるものだ!と言っていた人ほど、驚くほどに出でくるものだ。

しかし、質問ばかりしていると、「うるさいなあ!」と思われることもある。だから、小刻みにお礼をするのだ。「〇〇課長、この間教えていただいた△△のやり方で、今日うまくいきました。やっぱり、〇〇課長のやり方すごいですねえ~」こういうお礼を小刻みにすると、「そうか!ならな、今度はこうやって、もう一步突っ込むとうまくいくぞ!」などというアドバイスまでもらえたりする。上司を変えるのではなく、あなたの接し方を変えるのである。私はこうした上司のノウハウをおもしろいように盗んで成長してきた。みなさんも、試してみてくださいはいかかでしょうか?

事細かに教えてくれる上司と何も教えてくれない上司どちらが多いですか?

()

何も教えてくれない上司に対し、教えてもらうコツは何ですか?

()

()

小刻みにお礼をすると、上司はどんなアドバイスをくれますか?

()